

GS1-RSS を利用した血漿分画製剤の管理

○島本 一志¹, 小檜山 香¹, 櫻井 学¹, 鈴木 寛子¹, 斎藤 正志¹, 松原 宏²

(¹昭和大学藤が丘病院薬, ²エッチ・アンド・ティー)

【目的】近年、期限切れ薬品の使用が報道され、血漿分画製剤もその一つであった。また、血漿分画製剤はヒト血液に由来するため、供給が限られており適正に管理し使用する必要がある。病棟に血漿分画製剤を配置している場合、リアルタイムな期限の管理は困難となり、期限切れを起こす可能性が考えられる。

また、血漿分画製剤は使用記録の保管が義務付けられているが、払出した記録を使用記録として保管している施設もあり、正確な使用の記録とはなっていない。

さらに複数の血漿分画製剤が製造販売されているため、調剤過誤の原因ともなっている。これらの問題点を改善すべく血漿分画製剤管理システムを新規に導入した

ので報告する。【方法】システムはH&T社のTulip Whiteを用いた。血漿分画製剤

を入庫する際、薬品名、ロット、期限を入力しバーコードシールを2枚発行した。1枚は払出確認用、もう1枚は使用確認用とした。バーコードシールには入庫

時に入力した情報の他、薬品毎に異なる記号を表示した。これを用いて、使用記録の登録・保管、在庫・期限の管理、調剤過誤防止を行った。【結果】バーコード

シールに使用期限を表示し、払出確認用を薬局に保管することで、払出し後の製剤の使用期限をリアルタイムに薬局内で確認できるようになった。バーコードを

用いることで払出し・使用確認の誤入力がなくなり、正確な記録が行えるようになった。バーコードシールに薬品毎の記号を表示し、調剤時に確認することによ

って、血漿分画製剤の調剤過誤はほぼなくなった。【考察】今回導入したシステムは血漿分画製剤の使用期限および使用記録の管理に対して有用なシステムである

といえた。また、薬品毎の記号を用いた調剤過誤防止も有用な方法であることが

わかった。